

# シンポジウム 「超高齢社会のなかでケアのネットワークを考える」

■日時：2016年9月22日（木）13:00～17:00

■会場：大阪大学中之島センター 講義室 507（定員 72名）  
大阪市北区中之島 4-3-53 <http://www.onc.osaka-u.ac.jp/>

## ■シンポジスト

1) 林 道也（〈ケア〉を考える会・京都／岡山）

「〈ケア〉を考えるためのネットワーク」

2) 永井 佳子（からほりさろん）

西原 承浩（合同会社医療介護連携研究所・ぼちぼちいこ会）

「からほりケア CAFÉ がつくるネットワーク」

3) 藤本 啓子（患者のウェルリビングを考える会・神戸）

「ファミリー・リビングウィルがつくるネットワーク」

司会：浜渦 辰二（「ケアの臨床哲学」研究会、大阪大学教授）

進行：青木 健太（大阪大学大学院博士後期課程）



■シンポジウムの趣旨： ケアには、ひととひととが直面して1対1になる場面がどこかで出てきます（ケアのミクロの次元）。他方、ケアには、その1対1の場面を周りで支えるさまざまなネットワークが必要です（ケアのマクロの次元）。ケアの現場を支えるネットワークには、同職種のあいだでのチームワークによるものもあれば、異職種のあいだでのチームワークによるものもあります。厚生労働省が「在宅医療・介護」の推進のために掲げた「地域包括ケアシステム」も、「在宅（住まい）」を閉じられたケアの現場とせず、そのような地域（コミュニティ）ケアのネットワークで支えようとするものと言えるでしょう。しかし、更に言えば、今度はこれらの地域ケアがそれぞれの地域に閉じられたものとならないようにするには、さまざまな地域ケアのあいだのネットワーク（ネットワークのネットワーク）も必要となるでしょう。私たちがこれまでシンポジウム「高齢社会における終末期医療」（2010年4月）から始まって6年間続けてきた一連のシンポジウムは、京都、大阪、神戸という3都市のそれぞれで作られてきたケアのネットワークを更につなげたネットワークを作ろうとしてきました。そのなかでできたこと、課題として残されていることを振り返って、これからのケアのネットワークについて、皆さんと一緒に考えたいと思います。



■参加費：無料

■お問い合わせ・参加申し込み……参加予約が必要です  
はがき又はメールでお申し込みください

（氏名、TEL、FAX、メールアドレスを明記）

定員になり次第締め切ります。

満席となりお断りする場合にはのみ、連絡いたします。

〒560-8532 豊中市待兼山町1番5号

大阪大学文学研究科 浜渦研究室気付

「ケアの臨床哲学」研究会 宛

E-mail : [yoshinokumano@gmail.com](mailto:yoshinokumano@gmail.com)

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~cpshama/clph-care/clph-care.htm>

共催：・患者のウェル・リビングを考える会（神戸） [http://www.geocities.jp/well\\_living\\_cafe/](http://www.geocities.jp/well_living_cafe/)

・〈ケア〉を考える会（京都／岡山） <http://care-kyoto.jimdo.com/>

・からほりさろん（大阪） <http://odekake-karahori.com/salon/>

・合同会社医療介護連携研究所・ぼちぼちいこ会（大阪） <http://iryorenkeikenkyujo.hp.gogo.jp/sp/free7.htm>

